

「あなたの家に平和があるように」

サムエル記上25章6節

2020. 9. 20

サムエル記上 25:1～25:17 (旧約・P.469)

25:2 一人の男がマオンにいた。仕事場はカルメルにあり、非常に裕福で、羊三千匹、山羊千匹を持っていた。彼はカルメルで羊の毛を刈っていた。

25:3 男の名はナバルで、妻の名はアビガイルと言った。妻は聡明で美しかったが、夫は頑固で行状が悪かった。彼はカレブ人であった。

25:4 荒れ野にいたダビデは、ナバルが羊の毛を刈っていると聞き、

25:5 十人の従者を送ることにして、彼らにこう言った。「カルメルに上り、ナバルを訪ね、わたしの名によって安否を問い、

25:6 次のように言うがよい。『あなたに平和、あなたの家に平和、あなたのものすべてに平和がありますように。』

25:7 羊の毛を刈っておられると聞きました。あなたの牧童は我々のもとにいましたが、彼らを侮辱したことはありません。彼らがカルメルに滞在していた間、無くなったものは何もないはずです。

25:8 あなたの従者に尋ねてくだされば、そう答えるでしょう。わたしの従者が御厚意にあずかれますように。この祝いの日に来たのですから、お手もとにあるものを僕たちと、あなたの子ダビデにお分けください。』」

25:9 ダビデの従者は到着すると、教えられたとおりのダビデの名によってナバルに告げ、答えを待った。

25:10 ナバルはダビデの部下に答えて言った。「ダビデとは何者だ、エッサイの子とは何者だ。最近、主人のもとを逃げ出す奴隷が多くなった。

25:11 わたしのパン、わたしの水、それに毛を刈る者にと準備した肉を取って素性の知れぬ者に与えろというのか。」

25:12 ダビデの従者は道を引き返して帰り着くと、言われたままをダビデに報告した。

25:13 ダビデは兵に、「各自、剣を帯びよ」と命じ、おのおの剣を帯び、ダビデも剣を帯びた。四百人ほどがダビデに従って進み、二百人は荷物のところにとどまった。

25:1 サムエルが死んだので、全イスラエルは集まり、彼を悼み、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立ってパランの荒れ野に下った。

- サムエル「その名は神」という意味。
- サウルはイスラエルの王でしたが、イスラエルの霊的指導者はサムエルでした。
- サムエルの職務は、士師（さばきつかさ）、祭司、預言者であった。
- ◆サムエルが死に、全イスラエルは集まって、悼み悲しみラマに葬った。
“悼む”とは、死を嘆き悲しむこと。



ナバル

- ナバルはマオンの財産家で、非常に裕福で、羊三千匹、山羊千匹を持っていた。
- 彼はカルメルで羊の毛の刈り取りの祝いをしていた。



- 彼は頑固で行状が悪かった。
- “カレブ人”
- 妻の名はアビガイルで聡明で美しかった。

ダビデ

- 六百人の部下を毎日養うダビデの責任は重大でした。
- ナバルが、刈り取りの祝いをしていることを聞いて10人の従者を送り、食料の援助を求めた。
- ダビデの名前でナバルの家の平安と祝福を願った。
- 荒れ野でナバルの羊飼いたちと羊を守ったことを述べた。
- 「仕事が終わったお祝いの日に来たのですから、少し食べ物をください」と丁寧にあいさつし申し込んだ。

ナバルの反応（答え）

- ◆ 「お祝いの食料を与えてほしい」ダビデの願いをはねつけた。
- ◆ ナバルはケチで人と話ができず、すぐカッとなって大声を上げる。
- ◆ 「ダビデとは何者だ。不忠実な“脱走奴隸”ではないのか。」
- ◆ ダビデたちが自分の財産を守ってくれたことに感謝の気持ちがない。
- ◆ ダビデを敵にしたら自分たちの命が危ないことを悟っていない。
- ◆ ナバルは、ダビデを侮辱し、何も与えないで使者たちを追い返した。

- ◆ ダビデは激怒し、直ちにナバルを攻撃しようと出発した。



ナバルの従者がアビガイルに報告

25:14 ナバルの従者の一人がナバルの妻アビガイルに報告した。「ダビデは、御主人に祝福を述べようと荒れ野から使いをよこしたのに、御主人は彼らをののしりました。

25:15 あの人たちは実に親切で、我々が野に出ていて彼らと共に移動したときも、我々を侮辱したりせず、何かが無くなったこともありません。

25:16 彼らのもとにいて羊を飼っているときはいつも、彼らが昼も夜も我々の防壁の役をしてくれました。

25:17 御主人にも、この家の者全体にも、災いがふりかかろうとしている今、あなたが何をなすべきか、しっかり考えてください。御主人はならず者で、だれも彼に話しかけることができません。

➤ 愚かな主人にも賢いしもべがいた。



アビガイルの嘆願

- ◆アビガイル（わたしの父は喜び）
- ◆夫には内密に、様々な食糧をろばに積み込み、急いで謝罪しようとダビデに会いに出かけた。
- ◆アビガイルは、ダビデの前にひれ伏して、夫の代りに謝罪した。
- ◆「夫はよこしまな者ですから、彼のことは気になさらないで下さい」
- ◆彼女は贈り物を差し出して、ダビデの将来について語った。
- ◆命は主によって守られており、やがて必ず王位に就く方。
- ◆主の戦いを戦う大切な体だから、報復して後に心のとがめとなって残るような行動に出ないようにと、一生懸命に願い求めた。

復讐心を静められたダビデ

- ダビデはアビガイルのとりなしによって、主に罪を犯さずに済んだ。
- アビガイルを無視していたら、自分が復習したことに罪悪感を感じた。
- 自分は正しいと思っても、他者の声に耳を傾けることは大切です。
- その後、ナバルは神に打たれて突然死んだ。
- ダビデは主の御業に感謝し、アビガイルに結婚を申し込んだ。
- アビガイルは、ナバルとの不幸な結婚生活の中で正しい行動を神によって示したため、彼女はダビデの妻になった。
- ダビデもアビガイルと結婚したため、ナバルの財産が手に入り、兵士六百人とその家族を養うための食糧の助けになった。



ルカによる福音書 10章5～6節

10:5 どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。10:6 平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。

- イエス様は、七十二人の弟子を遣わされる時、「まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。」と言われた。
- イエス様の願いは、私たちが助け合って平和に生活することです。
- 『この家に平和があるように』 → 『この家に神からの祝福がありますように』
- 私たちが人に出会ったり、訪問する時は『この家に平和があるように』と言いましょ。
- もしそこの家の人拒否するなら、あなた方の祈った祝福は、あなた方に帰ってきます。これがイエス様の約束です。

「次のように言うがよい。

『あなたに平和、あなたの家に平和、あなたのものすべてに平和がありますように。』」

サムエル記上25章6節